

SDGs解説資料

SDGsの活用について

～地域と企業が持続的に成長するために～



株式会社愛媛銀行

企画広報部 SDGs企画室



SDGs（持続可能な開発目標）とは

2030年までに持続可能でより良い世界を目指す国際目標

■ SDGsとは、2015年の国連サミットで採択された持続可能でより良い社会をつくるための国際目標です。

■ 「誰一人取り残さない」のローガンのもと、貧困、飢餓、エネルギー、気候変動、海洋汚染、平和的社会的構築等の課題を達成するために、17の目標と169のターゲットが設定されています。

■ MDGsの後継であるSDGsは、普遍的な世界共通の目標として、国連や政府だけでなく、企業やNPO、個人等が担い手として積極的に取り組むことが期待されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



MDGs
ミレニアム開発目標

対象：途上国
期間：2001年～2015年

SDGs
持続可能な開発目標

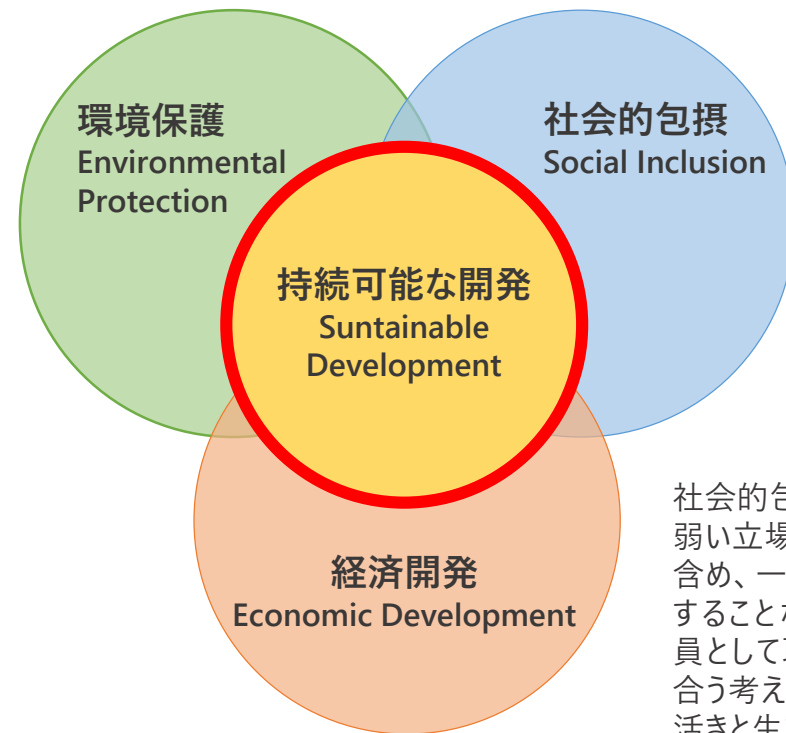
対象：すべての国
期間：2016年～2030年

持続可能な開発目標とは

将来世代のニーズを損なわずに、現代世代のニーズを満たす開発

- 国連では、「持続可能な開発」を「将来の世代のニーズに応える能力を損ねることなく、現在の世代のニーズを満たす開発」と定義しています。
- 子どもや孫、先の世代まで考えた開発が求められており、今さえ、我々さえよければそれでいいという考え方は、持続可能なより良い未来を築くことはできません。
- SDGsでは持続可能な開発を、「環境」「社会」「経済」の3つの側面において、バランスがとれていることが重要であると言われています。

3要素の調和



社会的包摂：社会的に弱い立場にある人々をも含め、一人ひとりを排除することなく、社会の一員として取り込み、支え合う考え方。誰もが生き生きと生きられる状態。

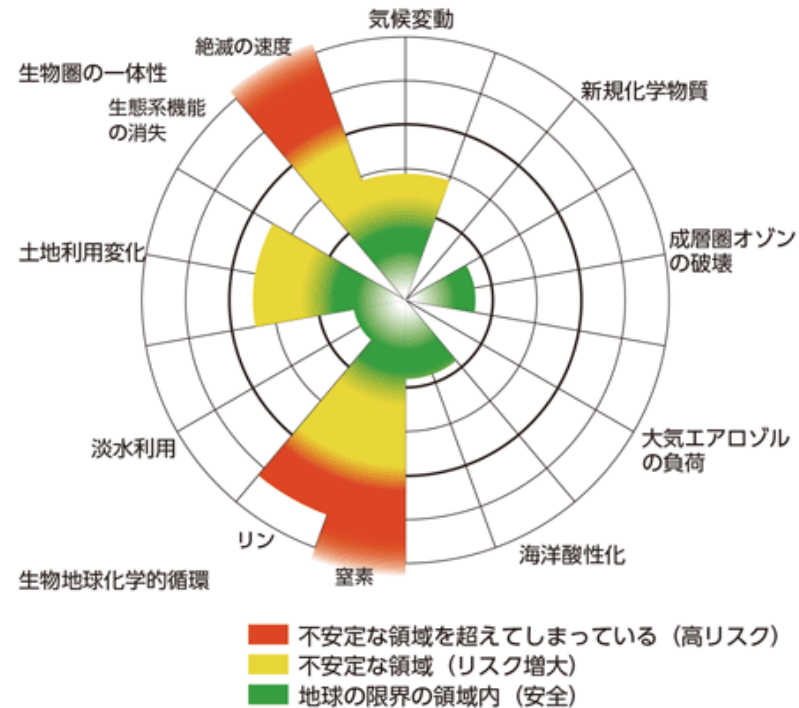
(出所：持続可能な開発目標推進本部「持続可能な開発目標実施指針」)

SDGsが生まれた背景とは

未来への警鐘！人間の生活が豊かになる一方で、地球環境への影響は深刻化

- 便利で豊かな生活と引き換えに、地球環境には深刻な影響をもたらしています。
- 地球の有限性や、人間が安全に活動できる範囲を科学的に示す「プラネタリー・バウンダリー（地球の限界）」によると、「気候変動」、「生物多様性」、「土地利用の変化」、「窒素・リンによる汚染」にて、既に限界値を超え、危険域へと達しています。
- 限界を越え、回復不能なダメージを受けてしまうと、経済や社会、我々の生活も危険にさらされてしまいます。

プラネタリー・バウンダリーの考え方で表現された現在の地球の状況



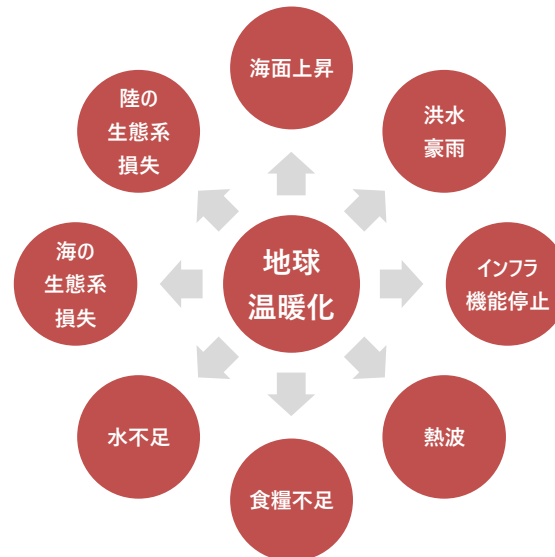
(出所：Will Steffen et al.[Planetary boundaries : Guiding human development on a changing planet]、環境省)

地球の限界を越えている例 — 気候変動①

気温上昇により、8つのリスクが顕在化！

- 気候変動に関する政府間パネル（IPCC）の第5次評価報告書によると、このまま気温の上昇が続けば、8つのリスクにさらされると言われています。
- 気候変動は、気温や降水量等の気象条件を変えてしまうため、我々の暮らしや産業等、様々な分野に影響に及ぼします。
- 他の要因も重なると、さらに深刻な被害となる恐れもあり、安全保障をも脅かしかねない問題とIPCCは報告しています。パリ協定をはじめ、サステナビリティを軸に構造変化が起き始めています。

気温上昇による8つのリスク



気候変動を巡る国内外の動向

・パリ協定

世界の平均気温上昇を産業革命前と比べて、2°Cより充分低く抑え、さらに1.5°Cに抑える努力をします。



COP21-CMP11
PARIS 2015
UN CLIMATE CHANGE CONFERENCE

・2050年カーボンニュートラル



菅総理

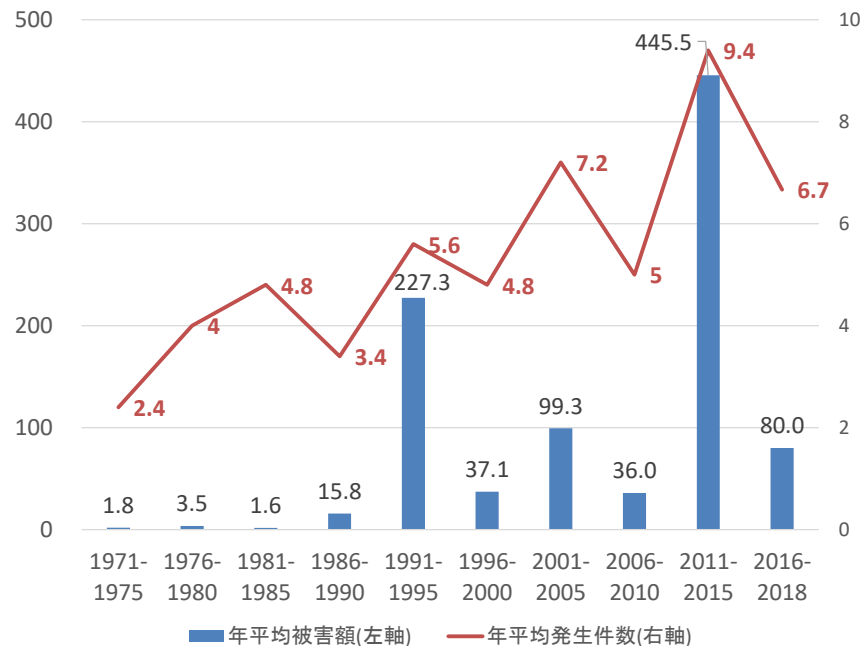
温室効果ガスの排出量を2050年に実質ゼロにし、脱炭素社会の実現を目指します。

地球の限界を越えている例 — 気候変動②

自然災害の発生件数は増加傾向

- 日本でもゲリラ豪雨、スーパー台風、大雪等、過去に経験したことのない規模の異常気象が多発しています。愛媛県では、2018年の西日本豪雨が記憶に新しく、対岸の火事ではありません。
- 気温上昇とともに自然災害の発生の頻発が顕在化してきたと見られ、常態化していくと見られています。
- 気候変動は、産業にも影響を与え、愛媛県でも、温州みかんが日焼け、浮皮等の被害を受けたとの報告があります。（一方では、高温に強い作物に切り替える等、温暖化を見越した対策も見られます。）

日本の自然災害発生頻度及び被害額の状況の推移



<2011年～2020年の自然災害>

2011年	東日本大震災
2011年	台風12号
2012年	九州北部豪雨
2012年	上越市国川地すべり
2013年	伊豆大島土石流
2013年	秋田県仙北市土石流
2014年	御岳山噴火
2014年	広島豪雨
2015年	口之永良部島噴火
2016年	熊本地震
2017年	九州北部豪雨災害
2018年	7月豪雨、北海道胆振東部地震
2019年	8月九州北部豪雨
2019年	9月台風15号・19号
2020年	7月九州豪雨
	など

(出所) 土砂災害防止広報センター他


(出所) ルーバン・カトリック大学疫学研究所 災害データベース(EM-DAT)より

1.1971年～2018年の自然災害による被害額を集計している。

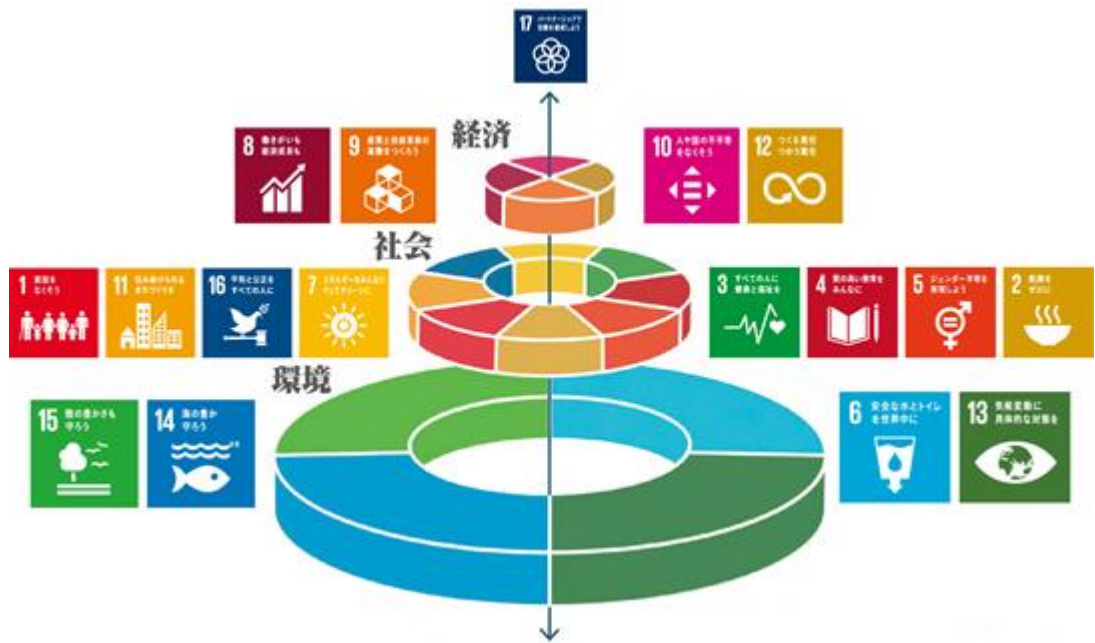
2.EM-DATでは「死者が10人以上」、「被災者が100人以上」、「緊急事態宣言の発令」、「国際救援の要請」のいずれかに該当する事象を「災害」として登録している

社会活動・経済活動とSDGsの関係性とは

我々の社会や経済は、豊かな環境の上に成り立つ
事業活動の多くは、環境や社会に何らかの影響を与えている

- SDGs理解の一助として、 「SDGsウェディングケーキモデル」があります。本モデルは、SDGsの17目標を経済圏、社会圏、生物圏の3階層に分け、全てのゴールが互いに関連し合っていることを表したものです。
- 水や食料等の自然の恵み、豊かな環境の基盤があることで、我々の社会生活、さらにその上に経済が成り立つことを示しています。
- 企業には、事業活動と環境・社会とのつながりを把握し、環境・社会的インパクトの創出が求められます。

「SDGsウェディングケーキモデル」から考える17目標の関係性



(出所：Stockholm Resilience Centre)

SDGsとCSRの違いとは①

CSRは「社会を良くするためのボランティア」、対して、SDGsは「ビジネスを通じて社会を良くしよう」とする考え方

- CSRは、企業がステークホルダー（消費者、取引先、株主等）の信頼を得るための社会貢献活動を指します。信頼を得ることで、企業の成長を目指す取り組みです。
- CSRの目的が利益を上げるためではないのに対して、SDGsはビジネスを通じて環境や社会問題を解決しようとする点が異なります。
- 社会貢献自体は素晴らしいことですが、企業は慈善団体ではありません。CSRも社会を良くしようという点で、SDGsに近いものはありますが、企業にとっては必ずしも本筋とは言えません。

SDGsとCSRの比較

	SDGs	CSR
名称	Sustainable Development Goals (持続可能な開発目標)	Corporate Social Responsibility (企業の社会的責任)
概要	<ul style="list-style-type: none"> 全世界共通で達成すべき17の目標と169のターゲット 各主体が得意分野・強みを活かして取り組む 	<ul style="list-style-type: none"> 本業や利益とは関係ない、社会を良くするために行うボランティア活動
事例	<ul style="list-style-type: none"> CO2削減・省エネに資する製品・サービスの提供（エコカーの開発、省エネ診断等） 健康促進に資する製品・サービスの提供（医薬品、栄養食品等） 	<ul style="list-style-type: none"> 環境保全活動（植樹、清掃等） 寄付・募金活動 地域振興（文化・芸術、スポーツ支援等）

SDGsとCSRの違いとは②

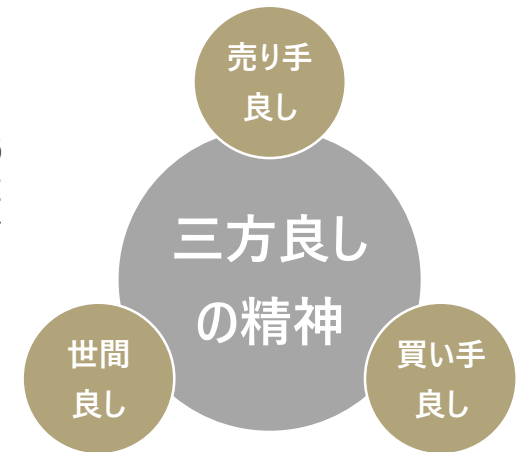
企業は「CSR」としてではなく、「本業」としてSDGsに取り組むことが重要

- CSRの多くは、利益を生み出す本業で発生した環境・社会負荷を、社会貢献活動で補填するというものです。
- しかし、残念ながらCSRの多くが、環境・社会的インパクトの創出には至らず、負荷を補填できていないのが現実です。また、慈善活動では取り組みは長続きしません。実際、CSRは余裕のある時に取り組めばよい、といった認識が浸透しています。
- ①環境・社会問題を解決しつつ、②ビジネスとしても成り立つ、この2つがマッチした時に、取り組みを継続できます。

SDGsにつながる経営哲学

- 近江商人「三方よし」

売り手、買い手が満足するのは当然のこと、社会貢献もできることが良い商売であるという概念。背景には、「土農工商」の身分制度にもあるように、当時、商売は卑しいものという考えがありました。



企業に求められるSDGs



河野太郎
外務大臣

企業にとってSDGsの活動が「CSRの一環」ではなく、「本業」を通じた取り組みであることが重要です。さらに大企業のみならず、中小企業も積極的に関与してもらうこと。(中略) 企業にSDGsを浸透させるための活動を始めているんです。

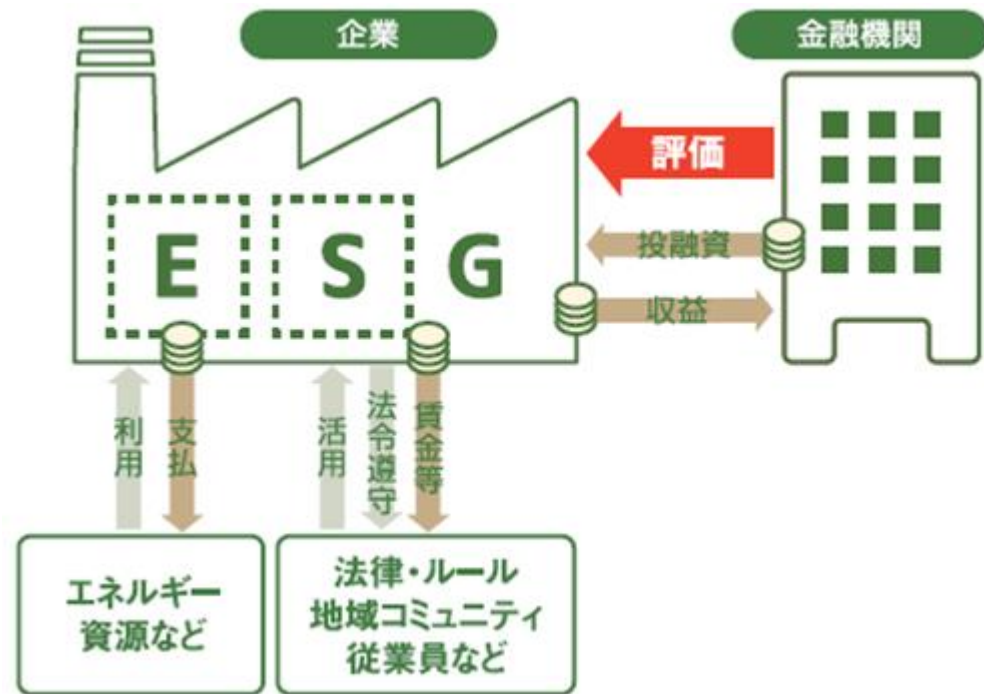
(出所：朝日新聞GLOBE9月号「大学生と考えるSDGsのいま」)

ESG投資とは

企業価値を測る材料として、非財務情報である環境（Environment）、社会（Social）、ガバナンス（Governance）の要素を考慮する投資

- ESG投資は、財務面だけでなく、ESGの課題に積極的に取り組む企業に資金を投じる手法です。ESGに優れた企業は、持続的成長が期待できるとの考えが普及し、SDGsの先駆けとなりました。
- 知りたいのは、企業が環境・社会問題等とどう向き合っているか、事業を通じて何をしたいか、何をリスク・機会と捉えて行動しているか等です。
- SDGsに挙がる中長期的な課題に対処できるならば、他の問題も十分対応できると考えられます。決してボランティア等の取り組みが知りたいわけではありません。

ESG投資の概念



SDGsとESGの関係性とは

SDGsとESGは表裏一体
SDGsはゴール・目的、ESGは目標達成・課題解決のためのプロセス・手段

- ESGは、当初、投資家向けに提唱された考え方ですが、企業が事業を見つめ直す際にも有効です。ESGで事業を因数分解することで、企業として取り組むべきこと、SDGs達成への道筋が見えてきます。

(例) タオルメーカーの場合
「E」：原材料は環境に配慮されたものを使用しているか
「S」：労働環境は適切か、過重労働はないか
「G」：情報開示は適切か

- SDGs達成のための実行手段がESGであり、ESGへの配慮の先に課題解決、SDGsの達成があると考えるとわかりやすいです。

ESG投資とSDGsの関係

ESG投資は企業にも新たな事業機会をもたらす



ESG投資で考慮される様々なESG課題と、SDGsのターゲットは共通点も多く、ESG投資が結果としてSDGs達成に貢献することになります。それによって持続可能な経済社会が実現すれば、GPIFの運用資産の長期的なリターン向上につながります。

(出所：GPIFツイッター)

なぜESG要素を考慮することが重要なのか①

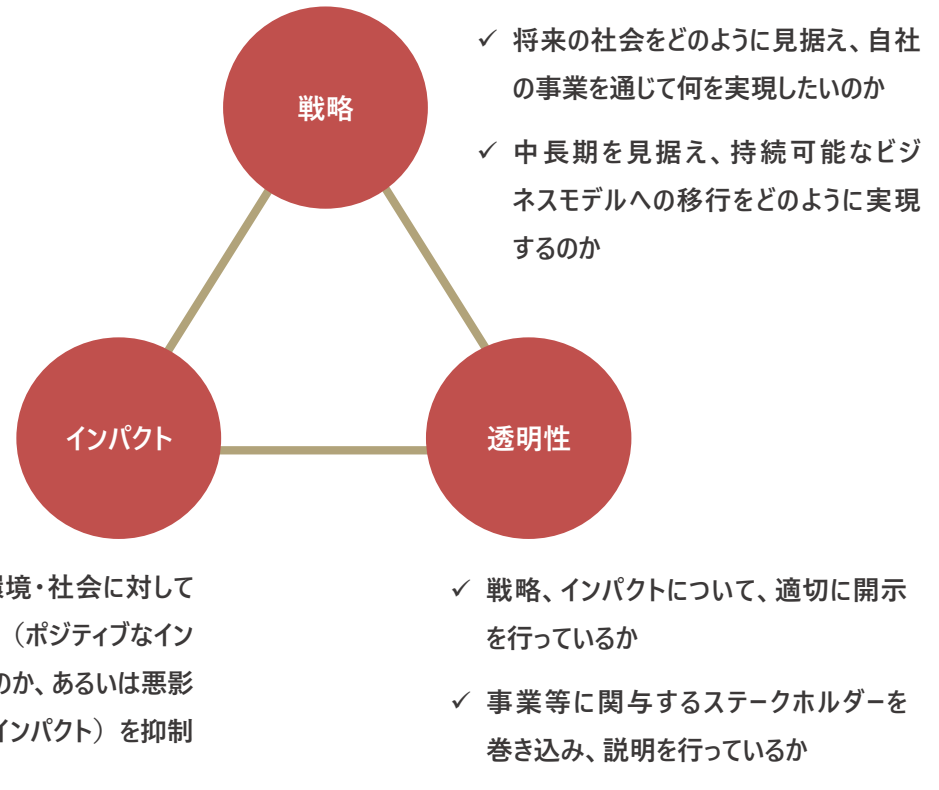
SDGsは、既にビジネスの世界での「共通言語」になりつつある世界がサステナビリティに向かう中、「戦略」「インパクト」「透明性」が重視されている

■ SDGsやパリ協定の採択以降、SDGsに貢献する企業によるサステナブル経営や、その取り組みを後押しする投資家によるESG投資（サステナブルファイナンス）と、サステナビリティへの流れは急速に進んでいます。

■ 特に、気候変動は喫緊の課題として注目されており、カーボンニュートラル等、サステナビリティを軸に構造変化が起き始めています。

■ 長期的な目標達成に向けた取り組みが進められる中、企業経営には、「戦略」、「インパクト」、「透明性」がより重要視されています。

今後、経営において重視されていくこと



なぜESG要素を考慮することが重要なのか②

サプライチェーンを通じて、地域の企業にも影響を与え始めている

- 製造業を中心に、環境や人権に配慮したサプライチェーンが構築出来ているか投資家に注視されており、対応状況により株価や業績にも影響しています。
- 今後、サプライチェーンの川下に位置し、サプライチェーン全体に力をもつメーカーが、2050年ネットゼロをコミットメントし、サプライヤーにもCO2排出削減を求めることが増えると考えられます。
- 製品製造における排出量に水準を設ける等、ESG課題への対応状況が取引条件となる可能性があります。

トヨタ自動車の環境チャレンジ

・ライフサイクルCO2ゼロとあるように、バリューチェーン全体でのCO2排出ゼロを目標として設定



(出所：トヨタ自動車「環境報告書2020」)

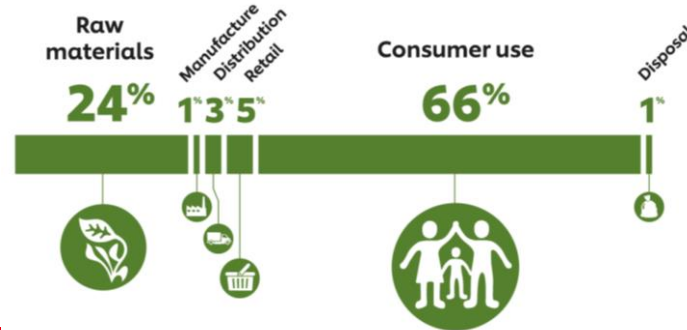
なぜESG要素を考慮することが重要なのか③

ユニリーバはバリューチェーン全体のカーボンフットプリントを明示することを表明

■ ユニリーバは、GHG※排出量削減方針として、①2030年までに事業運営から生じるCO2排出量をゼロにし、製品のバリューチェーン全体を通じてGHG排出量半減を目指す、②2039年までに、同社製品から生じるGHGのネットゼロ・エミッションを実現する、としています。

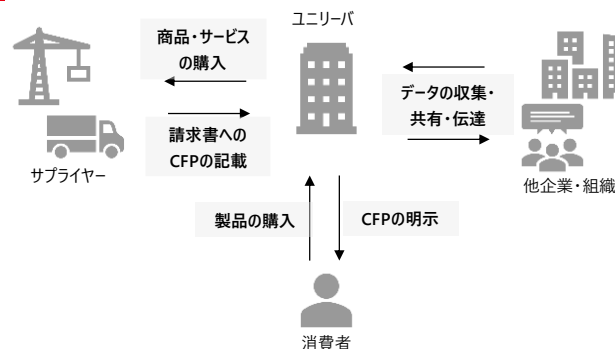
■ そのために、サプライヤーや他企業・組織と連携して、バリューチェーン全体のカーボンフットプリント（CFP）を製品に明示するとしています。同社では、脱炭素をビジネスチャンスと捉え、CFPがその鍵になると予想しています。

ユニリーバのGHGフットプリントの現状（2019）



GHG排出量に占める割合が最も高い「消費者による商品の使用」には、直接的に関与することが困難。（例：シャワーの使用等）
⇒ サプライチェーン全体でGHGネットゼロ・エミッションに取り組むことが重要。

ユニリーバのGHGフットプリントの概要



カーボンフットプリント（CFT）：商品やサービスのライフサイクル全体（原材料調達～廃棄・リサイクル）で排出される温室効果ガスの排出量をCO2に換算して表示する仕組み。

（出所：ユニリーバホームページより作成）

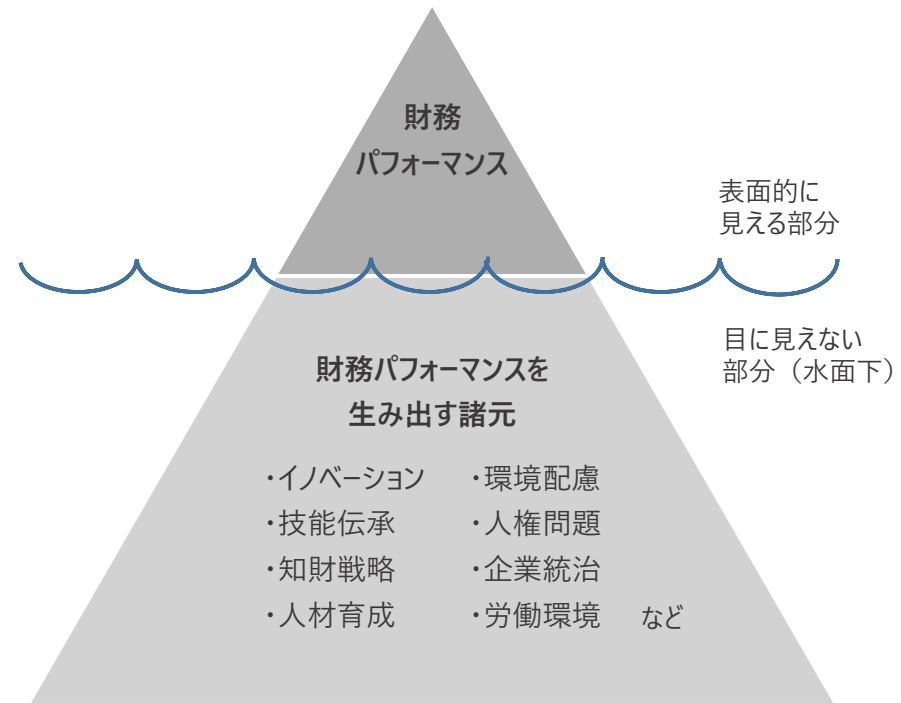
※ 二酸化炭素やメタンなどの温室効果ガスの排出量

ESG要素を考慮することとは

ESG要素の考慮は、視点を加え/変えてこれまで見れていなかったリスクや価値等を発掘することである

- ESG要素を考慮することは、社会貢献状況を見ることではなく、事業の将来性、持続可能性（リスク・機会）を判断するために必要な視点を追加することです。
- 事業におけるリスク・機会に関する情報は、貸借対照表や損益計算書等の財務情報からは読み取れない「非財務情報」による面が大きいと言われています。
- ESG投資では、財務情報としては表面上は表れ難い諸情報が、時間とともに売上や利益等の財務数値に転化する「企業の成長力の源泉」として考慮されています。

財務パフォーマンスと非財務情報



（出所：日本政策投資銀行資料より作成）

SDGsとビジネスとは①

SDGsはビジネスチャンス、取り組まないことが持続可能性の観点からリスクとなる恐れがある

■ SDGsの達成には、投資と開発が必要になります。ビジネス&持続可能開発委員会の報告書では、60の領域において、グローバル目標とビジネスチャンスが連動すると示唆しています。

■ SDGsが創出する市場機会は、年間12兆ドルとの試算もあります。（PwC2015年調査）。

■ SDGsの達成に資する事業は、市場拡大が期待できますが、逆に、SDGsに結びつかない、もしくは逆行する場合には、持続可能性の観点で時代の要請に合わなくなる可能性が考えられます。

グローバル目標とビジネスチャンスが連動する60の領域

食料と農業	都市	エネルギーと材料	健康と福祉
バリューチェーンにおける食糧浪費の削減	手頃な価格の住宅	サーキュラーモデル - 自動車	リスク・プーリング
森林生態系サービス	エネルギー効率 - 建物	再生可能エネルギーの拡大	遠隔患者モニタリング
低所得食糧市場	電気およびハイブリッド車	循環モデル - 装置	遠隔治療
消費者の食品廃棄物の削減	都市部の公共交通機関	循環モデル - エレクトロニクス	最先端ゲノミクス
製品の再調整	カーシェアリング	エネルギー効率 - 非エネルギー集約型産業	業務サービス
大規模農場におけるテクノロジー	道路安全装置	エネルギー保存システム	偽造医薬品の検知
ダイエタリースイッチ	自律車両	資源回復	たばこ管理
持続可能な水産養殖	ICE（内燃エンジン）車両の燃費	最終用途スチール効率	体重管理プログラム
小規模農場におけるテクノロジー	耐久性のある都市構築	エネルギー効率 - エネルギー集約型産業	改善された疾病管理
小規模灌漑	地方自治体の水漏れ	炭素捕捉および格納	電子医療カルテ
劣化した土地の復元	文化観光	エネルギーアクセス	改善された母体・子供の健康
包装廃棄物の削減	スマートメーター	環境にやさしい化学物質	健康管理トレーニング
酪農の促進	水と衛生設備	添加剤製造	低コスト手術
都市農業	オフィス共有	抽出物現地調達	
	木造建造物	共有インフラ	
	耐久性のあるモジュール式の建物	鉱山復旧	
		グリッド相互接続	

（出所：ビジネス&持続可能開発委員会「より良きビジネスより良き世界」）

SDGsとビジネスとは②

SDGsの活用は、企業にとって多くのメリットをもたらす 自分事、未来への投資と捉えることが肝要

- SDGsは経営の道しるべとして、既に多くの企業で取り組みが始まっています。ブルーオーシャン、ビジネスと社会貢献が両立できる賢く儲けられるツールとして注目されています。
- しかし、残念ながらSDGsの可能性に気付かず、既存の取り組みにSDGsを貼り付けただけ（いわゆるラベリング、ウォッシュ）で満足している企業がいるのも事実です。
- ウォッシュと言われなくても、SDGsを自分事と捉えることが肝要です。まずは出来ることから始めましょう。

SDGsの活用によって広がる可能性

企業イメージの向上

SDGsへの取り組みをアピールすることで、多くの人に「この会社は信用できる」、「この会社で働いてみたい」という印象を与え、より**多様性に富んだ人材確保**にもつながるなど、企業にとってプラスの効果をもたらす。

社会の課題への対応

SDGsには社会が抱えている様々な課題が網羅されていて、今の社会が必要としていることが詰まっている。これらの課題の対応は、**経営リスクの回避**とともに**社会への貢献**や**地域での信頼獲得**にもつながる。

生存戦略になる

取引先のニーズの変化や新興国の台頭など、企業の生存競争はますます激しくなっている。今後は、SDGsへの対応がビジネスにおける**取引条件**になる可能性もあり、**持続可能な経営を行う戦略**として活用できる。

新たな事業機会の創出

取組をきっかけに、地域との連携、新しい取引先や事業パートナーの獲得、新たな事業機会の創出など、今までになかった**イノベーション**や**パートナーシップを生む**ことにつながる。

(出所：環境省「すべての企業が持続的に発展するために
－ 持続可能な開発目標（SDGs）活用ガイド－」)



愛媛銀行は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。